



子どもたちが主役の活動をめざして！

児童集会（給食委員会）＆昼休みコンサート（3年1組）

まだまだ暑い日が続いていますが、西小の子どもたちは、毎日元気に学校生活を過ごしています。暑さ指数が「危険」を示す数値になることもあり、20分休みや昼休みの校庭での外遊びがなかなかできず、残念な気持ちの子どもたちが多いようです。西小では、日頃の授業はもちろんですが、明るく元気な子どもたちにのために、活躍の場がたくさん用意していきたいと思っています。

9月11日（木）朝の集会では、給食委員会の子どもたちが、給食に関するクイズ（日本で最初の給食のメニューは？など）を披露し、集まった子どもたちの給食への関心を高める活動を行ってくれました。楽しい企画を用意してくれた子どもたちや先生に感謝です。



【3年生による昼休みコンサート】

昼休みには3年1組の子どもたちが日頃の音楽の授業の成果を「昼休みコンサート」で発表してくれました。昼休みコンサートは7月の6年生に続く第2弾です。

子どもたちの歌声や演奏は、私たちに元気を与えてくれます。次回のコンサートを楽しみにしています。



【給食に関するクイズを出題する児童】

学校では、子どもたちへの指導の際は、活動自体が目的とならないことを意識しています。活動を終えた後は、しっかり「振り返る」ことで、子どもたちは、自らの成長を実感し、改善点を今後に活かそうとすることができると考えているからです。私たち大人がすべてを用意するのではなく、できるだけ子どもたちに「考えさせ・挑戦させたい」と思っています。「できた・できない」「成功・失敗」といった結果だけで判断するのではなく、そこに至る過程を大切に、自ら考えて行動することができる自律した学習者を育成したいと考えています。各ご家庭でも、こうした考えにご理解ご協力をいただき、子どもたちへの声かけでも意識していただければ幸いです。

文部科学省指定

がん教育推進事業の一環で 緩和ケア認定看護師さんによる講演会開催

9月12日（金）5・6年生を対象に、桐生厚生総合病院に勤務している看護ケア認定看護師さんに来校していただき、「やさしい がんのお話し」をテーマに講演していただきました。今回の事業は、文部科学省の「がん教育に関する外部講師活用事業」として行いました。

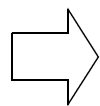


【看護師さんに質問する児童】

講師の看護師さんからは、私たちは病気を単に恐れるのではなく、病気について正しく知り、検診を積極的に受診するなど、正しく備えることが大切であると教えていただきました。お話を聞く中で、私は、数年前の新型コロナウイルスとの戦いの日々を思い出しました。目に見えない、得体の知れないウィルスに、人々は恐怖を抱き、自由に外出することができなかったあの頃が思い出されました。やがて、病気への理解が進み、新たな治療法や新薬が開発され病気への治験が進むことで、徐々に平穏な日常を取り戻すことができた経験からも「正しく知ること、備えること」は、これからの時代を生きていく子どもたちに身に付けてほしい力のひとつであると思いました。

＜お知らせ＞

右のQRコードから西小のWebページをご覧くださいと、過去の「学校だより」等がご覧いただけます。



西小ホームページ

西小の取組紹介⑦

がんばっている西小の子どもたちや先生方を紹介します！

3年生 万引き防止教室



【迫真の演技で子どもたちを釘付け】

9月11日（木）3年生で万引き防止教室が行われました。
この日は、桐生警察署生活安全課からスクールサポータの方を講師にお招きし、友だちからの万引きの誘惑やそれを断りにくい状況などを担任の先生とロールプレイ（寸劇）で伝え、子どもたちに状況をイメージさせることで、その後の話し合いや「ふりかえり」もしっかり考えられる、わかりやすい授業であったと思われます。授業の終盤には、万引きをしてしまったことで悲しむ家族を想像する場面もあり、誘惑への抑止につながると思います。単に「ダメ」だけではなく、「なぜ、どうして？」と、その後の結果を想像させる、考えさせることの大切さを再認識する機会となりました。

文部科学省・群馬県教育委員会指定「がん教育推進事業」への取組状況

9月30日（火）西小5年1組の学級活動で「**がんから命を守るために自分でできることを考えよう**」をテーマに授業を市内を中心に広く、教育関係者や保健医療関係者、大学等関係者に授業公開します。

現在、公開する授業内容について、県教育委員会及び市教育委員会の先生方にご指導やご協力頂き構想を練っています。授業後には県のがん教育推進委員会の方々による協議会が開催され、これからの群馬県における「がん教育の在り方」等が協議されます。また、授業者の大湊先生、養護教諭の加賀美先生には本校での実践を踏まえ、来年2月に行われる文科省のがんシンポジウムに参加していただく予定です。

なお、当日は県内から多くの関係者が来校するため、保護者の皆様や地域の皆様には残念ながら公開できませんが、授業の概要や研究協議会の様子については、後日ご紹介させていただきます。



【県・市教委との授業検討会の様子】

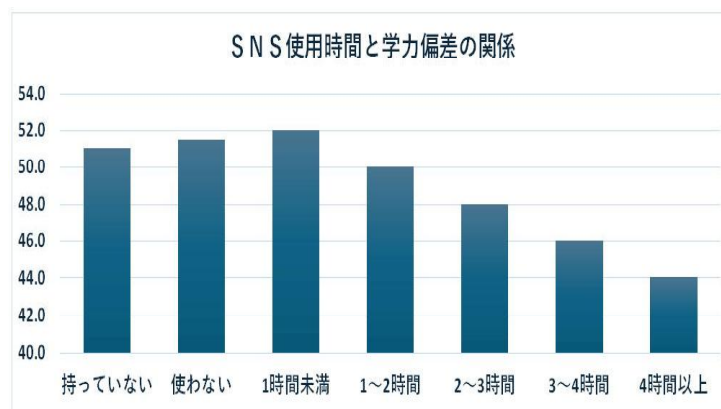
校長室から

「スマホが脳や学力に与える影響」って②

前回に続き、ニンテンドー DS 用「脳トレ」の監修で著名な東北大学応用認知神経科学センターの榊浩平先生の講演会の概要（2回／全3回）を紹介します。（以下、講演会の概要です）

東北大学がS市の小中学生約7万人を対象に調査したところ、スマホ等の使用時間と学力の関係（グラフ参照）が明らかとなった。

スマホを「持っていない」「使わない」とした児童生徒より「1時間未満」の方が学力偏差（縦軸）は高い。これは、前頭前野で「**決められた時間を守る（我慢する）ことができる力（非認知能力）**」が身につけていることが**要因**としてあると考えられる。また、スマホを毎日3時間以上使用している児童生徒は、どれだけ長い時間勉強しても学力偏差50



【S市におけるSNS使用時間と学力偏差の関係】

を上回ることができていないという衝撃的な結果も明らかとなった。さらに、3時間以上の「ながら勉強」している児童生徒は、「ながら勉強」をしていない家庭学習が30分未満の児童生徒とほぼ等しい結果も出ている。これらのことから、効率的に学習をするためには、児童生徒が勉強をする場所から、物理的にスマホを離すことが必要である。

脳科学の分野から「スマホ等の使用時間と学力の関係」について考察する中で、群馬県で進めている非認知能力（あきらめない、我慢する、協調する、寛容である等）が学力に影響を及ぼしている可能性に言及されたことは興味深いと言えます。

